

田中研新聞

第86号

2020年
9月10日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任 田中雅博

岡田君、ゲストスピーカー

集中講義「ジョブリサーチ」

科目の紹介

3回生配当科目の「ジョブリサーチ」は、専門教育科目ですが、他の専門科目とは異なり、学生たちの就職への動機づけ、仕事内容の紹介、さらには、卒業後の人生設計を考えるために設けられた科目です。

講師は、ソフトウェアの会社の経営者、エンジニア、自営など多岐に亘り、甲南大学の卒業生の方にもなっていたいただいています。

本科目は、若谷先生、新田先生、田中の3名の会社勤めの経験がある専任教員が、それぞれ夏休みに1日ずつ、外部のそうした先生方と一緒に担当しています。

今年度は、新型コロナのため、第1回目の田中担当は、8月4日にオンラインで実施しました。なお、第2回目、3回目もオンラインでの実施であり、夏休み後半に、それぞれ新田先生、若谷先生が担当します。

8月4日は、3名の講師の方に、Zoomでの講義形式で実施しました。

1人目は、森本登志男先生で、多くの業種、職種のご経験のうちに、地域活性化・情報化などで講演活動などを行ってられます。転職によるステップアップがキーワードです。

2人目は、岩崎磨先生で、知能情報学部のもとになつていて、理学部経営学科学科出身で、楽天のシステムを作ったりと、現在はLixilの役員をし、多くの社員の先頭に立って活躍です。

3人目は、2年半前に田中研究室大学院修了の岡田航大君です。岡田君は、グロリー株式会社品の品質保証部にお勤めで、非常に面倒見の良い性格であること学生時代から知っていましたので、是非、この科目で話をしてもらいたいと学生時代から思っていました。

今年度2年目のゲストスピーカーでした。オンラインでも受講した学生からは、非常に身近に感じられて、よかったですのフィードバックを多くもらいました。以下、岡田君の手記をご紹介します(田中)。



安定した実力を!

今年度もお声かけ頂き、ゲストスピーカーとしてジョブリサーチの講義にお邪魔をすることになりました。昨年度とは世の中の情勢も変わってしまい、講義もテレワークの形式で準備させてもらいました。やはり私のように経験が浅いものにとつて、聞いている人の反応が見れないのは非常にやり辛さを感じました。が、感想文を読んでいるとあの時間で一番伝えたいことが耳に残ったようで一安心しました。

岡田航大

さて、講義の補足に近い内容になりますが、今回の講義内容の裏話です。感想文を見てみると学生はやはりモノづくりに対して「開発」や「製造」というわかりやすいものはよく調べている人もいます。ですが、実際のところはそれより後の工程が存在しており、作ったものを安定させる技術も存在します。

1回だけたまたま良い数値を出した部品よりも多少低い数値でも安定した数値が出せる方が製品には採用されやすいです。これは、会社を1つの製品だと捉えると人材にも同じことが言えてしまいます。

野球に例えると「お前またそれか」と言われますが、わかる人には刺さるようなので、例えば、10勝10敗の投手でも毎年1年間ローテを回してくれる投手と、1回だけ20勝してそれ以外に怪我したり負けが先行したりする投手なら、前者のほうが長くプロでやれそうです。大体人は大学卒業してからは経年劣化していくものですから、安定させるという事は思った以上に難しいです。(勿論、世の中には引退するまで毎年20勝するような化け物もいます。そんなのはごく一部です)その例えなら私は年間20勝できる人材ではありません。もちろん20勝したい

と思っていてそれに向かつて日々自分なりにやっていますが、そう簡単には行きません。恐らく先発投手ですらありません。でも、毎日準備は欠かしません。「行け」と言われればいつでも行ける準備はしています。皆が嫌がる場面や準備ができていない場面でもすぐに登板していきます。時におこぼれの勝利を拾ったり、逆に負けてしまうこともあります。そんなことを重ねている時には先発として投げさせてもらえたり、抑えとして使ってもらったり、20勝投手になることが難しくても、こういうやり方もあるというのが今の私が学生に伝えられる唯一のことだと思えましたので、サボるなという話をしました。

世間では無事之名馬、甲南的に言えば「常に備えよ」ということです。さて先の話を見て言え「大手に入りた」という目標を掲げる人も少なくないようですが、それに対して色々なアプローチがあるとは思いますが、先ず「20勝できる回数を増やす」と「毎年10勝10敗を目指す」ですが、前者はそもそも20勝できる地力がないと実現がそもそも不可能です。後者はまずは毎回講義を聞くことから始まりです。それだけ聞けば簡単だと、言う人が多いと思いますが、講義を「休んだ」「サボった」ことがない学生が非常に少ないのは周りを見ればわかると思います。

新ゼミ生正式決定!

前期までの成績が発表され、それに伴い、通称3回生ゼミの履修条件である、単位数の確認ができたので、それに基づき、7名の新しいゼミ生が正式に決まりました。ここで決まった人は、4年生の卒業研究まで、同じ研究室で行うことになると思います。

私の研究室での研究にピッタリの動機をもって入った人もあれば、そうではない人もありますが、自分の置かれた場所で成功するように努力していくことが非常に重要です。

コロナのためにゼミ室のキャパシティが制限され、ゼミも、全員をゼミ室に入

後期科目実施方法

甲南大学は、後期授業は、150名以下の受講者の科目は、対面授業をするという方針です。ただし、各教室の定員は、感染予防のために、かなり絞り込んだものとなります。

そのため、教室の割り当てが困難極まりないものになる様子で、学生の履修申請期間とその調整期間合わせて3週間は、オンライン講義となります。

我々も、方法が決まらない授業の準備が難しくなっています。何とか乗り越えておいてください。メンバーの自己紹介は、次号でおこないたいと思います。(田中)

対外予定

11月7日 神戸市シルバークレッジにて、講義(オンラインデマンド)
1月8日 田中教授、鹿兒島大学工学研究科にて、先端科学特別講義を行う。

編集後記

長く続いた安倍政権がついに幕を閉じることになりました。期間は長かったのに、成果は思い浮かびません。この場で政治を詳細に論じることは避けませんが、はっきりとした原因は、専門性の高い人をほとんど登用せず、仲のいい人、イエスマンや、都合の良い人を重用したことが災いしたのではないのでしょうか。

中国にしても台湾にしても、理系の、トップレベルの人を内閣のトップに置いていないと言います。国民に、専門的な難しい言葉ばかりで説明しても、理解してもらえないというのは事実ですが、政策の根本には高い専門性と高度な判断力を伴ったものが無いと、いけません。感染症という、自然



現象に、文系的な発想で対処することは極めて危険です。情報システムにしても、いままでおろそかにしてきた情報化の不備が一気に噴出しました。

オンライン申請は時間がかかるから、紙で申請をとというような、笑い話にもならないことを外国にさらしてしまいました。もう、人海戦術で済む時代ではありませぬ。ずいぶん予算をとって情報化と称した花火大会をやったけど、打ち上げたたんに消えてしまった情報化が進まなかったのではありません。

情報系の学会も、政府のやっていることにもっと目を光らせて、具体的な提言をしていったらどうでしょう。政府に専門家の意見を聞く仕組みはありますが、自由に意見が言えるようではないということも、コロナ禍の中で理解しました。

日本人は、非常に賢いところもあり、日本人の考えたものが、世界で使われることは多数あるのは皆さんご存じの通りです。しかし、社会の仕組みなど、人の絡んでいる部分が極端に弱いのです。

本質を見ずえた眼力の必要性を理解せず、人間関係の都合をベースに動かしてきた日本という国がいかに時代遅れになっているか、そして、ともに機能していない状態かということ、今、明白になったような気がします。

若い人、黙っていたら、日本の将来は暗いです。知能情報が活躍すべき時代はまさに今です。(田中)